

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

大会でアンパイヤーを務めたときの質問です。予め大会役員がボールのバウンドを調節済みでしたが、マッチ開始前の練習のとき、プレーヤーがボールのバウンドについてアンパイヤーに対し、空気が少ないのではないかと申し入れるケースを見かけますが、ボールのバウンドはプレーヤーの好みで調節を受け入れてよいのでしょうか。また、マッチ中にボールの交換の要求があった場合はどう対処したらよいのでしょうか。

Answer

両者からの交換要求があった場合のみ
要求を確認して正常なボールの交換をする

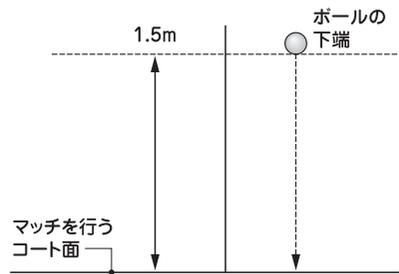
ボールの重さおよび直径については製造上の規格ですので、主としてバウンドだけがアンパイヤー等の責任において調節すべきものとなります。空気が多めで弾みのよいボールを好むプレーヤーや、その反対のプレーヤーもいます。季節やコートサーフェスによってもボールの弾みは多少変わります。例えば団体等ボール管理係が入念に空気の調節をし、検定を行ったにもかかわらず、試合開始までに時間が経過することによってボールの内圧に変化が生じます。気温が低いときは小さく、気温が高ければ膨らんで弾みますので、ご質問のような申し入れがあります。そこで担当アンパイヤーは、マッチ開始前に改めて測定器具を使用し、検定（空気の調節）をされることを要望しておきます。

なお、ボールの管理はアンパイヤーの職務であり、プレーヤー自身が勝手にポンプで調節することはさせないよう、アンパイヤーの責任で調節しましょう。ボールの交換の要求があった場合ですが、一方からの交換要求には応じなくてもいいと思いますが、両者からの交換要求があった場合は、要求を確認（例えば、ボールのプレ等）して、正常なボールに交換するのがよいでしょう。

解説の「なお、……」とボールがコートの土の色等によって元の色でなくなった場合のことが記載されていますが、これは、たとえば白色のボールがマッチ中にコートの土の色に染まって褐色になったような場合でも「使用球は白色のものでなければならぬ」といって頻りにボールの交換を要求することを避けようという主旨で加えられたものです。

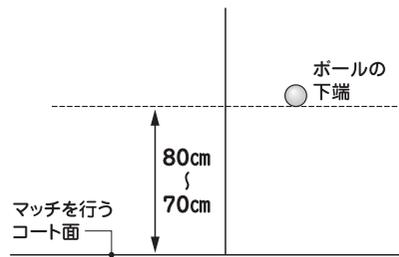
【ボールを落下させる高さ】

* マッチを行うコートにおいてボールの下端が1.5mの高さから故意に力を加えることなく落下させる。



【ボールのバウンドの範囲】

* コート面で弾んだ後の最高到達点がボールの下端で70cmから80cmまでの範囲



競技規則第13条（ボール）

ボールは空気の入っているゴム製品で、原則として白色とし、その規格は次のとおりとする。

- (1) バウンドの高さは、マッチを行うコートにおいてボールの下端が1.50mの高さから故意に力を加えることなく落下させた場合、コート面で弾んだ後の最高到達点がボールの下端で70cmから80cmまでの範囲となるよう調節する。（2003年以前は65cmから80cm）
- (2) 重さは30g以上31g以下とする。
- (3) 直径は6.6cm（±0.1cm）とする。

【解説3】公認球は、白色及び黄色であるが、大会要項でボールの色について触れていない場合は、白色のボールを使用する。なお、競技に使用することによってボールが自然に変色した場合は、そのボールは元の色のものであるとみなす。